

# 研究の概要

## 1 研究主題

一人一人の学びを深める授業の創造

～教材・自己・他者をつなぐICT機器の活用による協働的な学びを通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日的な課題から

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を通して、これからの社会に求められる資質・能力を育むことを重要視している。我が国は少子高齢化や財政の悪化といった様々な課題を抱え、加えてグローバル化やAIを始めとした科学技術の発展など、様々な影響を受けている。子ども達が成長していく過程において今後は多様な国の人々と協働することが求められるとともに、既存の知識だけでは通用しなくなることが考えられる。寿命が延びるほど、社会の変化に対応しなければならず、自ら学ぶスキルを身につける姿勢が必要となる。そういう社会を背景に教育の現場では、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力の3つの柱を育成するための授業改善が求められている。

また、2019年から始まったGIGAスクール構想のもと、本校でも児童用タブレットが完備されWi-FiなどのICT環境整備が行われた。新時代に求められる教育として、ICTの活用は必須であり、変化の激しい時代を生き抜く子ども達にとって必要とされている。

以上のことから、本校では、子ども達がICT機器を活用しながら、主体的に課題解決に取り組む、対話をしながら学びを深めていけるような授業づくりを探求していくことを研究の主題とした。

### (2) 学校教育目標の具現化から

本校の教育目標は「心豊かで助けあう子」「よく考え学びあう子」「ねばり強くきたえあう子」である。本研究が目指す一人一人の学びを深める日々の授業実践の積み重ねが、この3つの「～あう」につながり、学校教育目標の具現化に結び付くと考えたことからこの主題を設定した。

### (3) 児童の実態から

本校には、明るく元気で、素直な子供達が多い。授業中は、一生懸命課題に取り組んだり、友達と協力したりして学習する。しかし、自分の考えを相手にわかるように説明したり、友達の考えを聴き、それをもとに自分の考えを再構築して表現したりする力が弱い。

また、「わからない。」と言えなかったり、自分から質問できなかったりする児童もいる。

以上の実態をふまえ、友達や教師との対話を通して課題を追求し、自ら学び続ける子どもを育成していきたいと考え、上記の主題を設定した。

### 3 研究の目標と重点

#### 研究目標

「一人一人の学びを深める」ために、ICT機器の活用にあわせて各教科でどのような授業改善をしていけばよいか、教師一人一人の日々の実践と授業実践公開研究会を通して明らかにしていく。

#### 研究の重点

- ① 「協働的な学び」によって「学びに向かう力・人間性」を育む授業づくりの視点を意識した実践
- ② ICT機器を活用した授業実践とその交流

### 4 目指す子ども像

目指す子ども像を「友達や教師との対話を通して課題を追求し、自ら学び続ける子」と捉え、以下の具体的な姿を目指していく。

#### ◎ 目指す子ども像

友達や教師との対話を通して課題を追求し、自ら学び続ける子

#### ○ 具体的な子どもの姿

- ・ 「どうしてだろう」「分からない」「ここどうするの？」と自分から話すことができる子  
(分かってとるからこそ「分からない」と言える。尋ねることで他者と関わることができる。)
- ・ 友達の話を最後まで聴くことができる子  
(相手の意図を汲み取ろうとすることで他者を思いやり内容や正しく理解したりすることができる。)
- ・ 友達の考えと自分の考えをつなげて表現できる子  
(似ている、違う、共通点がある等を考えることで自分の立場を明らかにしたり、正しく判断したりすることができる。)
- ・ 学んだことを自分なりの言葉で表現できる子  
(分かったことを自分の言葉で話したり書いたりすることで理解を深め定着させることができる。)

### 5 本年度の研究の重点

「一人一人の学びを深める授業の創造」に向けて

#### 1 理論研究

- (1) 各教科の指導でのICT機器の活用の仕方の研究と実践
- (2) 各教科の指導でのつなぎ方の集積

## 2 授業実践

- (1) 一人一研究授業の実践を通して教材研究を行う。教科は個人で選択し、テーマを決めて研究に取り組む。学年・学団で研究内容を共有し、共に学び合う。
- (2) 単元または、1 単位時間のねらいを達成するために、導入、展開、終末で何と何をつなぐのか考えながら授業を構築する。
- (3) 「課題把握」「課題解決」「学び合い」「振り返り」などの授業場面において、ICT機器をどう効果的に活用するか検討し実践する。
- (4) 授業実践公開研究会指導案作成にあたって以下の点に留意する。
  - ア 単元・授業の構想に「つなぐためにICT機器をどう活用するか」という視点を入れる。
  - イ 本時の評価規準も明示し目指す子どもの姿を明確に持って指導する。
- (5) 授業における教師の活動が「つなぐ」活動になっているか検討する。
  - 教材とのつながり（子どもとテキスト・板書 本時と既習等）
  - 自己とのつながり（メタ認知 自己と社会 学びと社会）
  - 他者とのつながり（子どもと子ども 教師と子ども）
- (6) 研究会は、子どもの姿から学ぶ姿勢を大事に継続していく。

- \* 学習したこと（板書や子どもの作ったもの）をロイロノートに保存し、振り返ることができるようにする。
- \* 授業実践公開研究会の動画や学習指導案、写真など全てロイロノートの資料箱（分掌→研究→主題研究）に保存し、振り返ることができるようにする。

## 6 研究の基本的な考え方

### (1) 授業の構想について

一人一人の学びを高めるために、子ども一人一人の学びがどの段階にあるのか把握する。

- ア 知らない→知る（認知の段階）
- イ 知る→分かる（理解の段階）
- ウ 分かる→行う（思考・判断・表現の段階）
- エ 行う→できる（ ）
- オ できる→共有（他者や社会と関わり、学びを高める段階）

単元や単位時間の授業の中で、前半は認知や理解の段階を経るが、後半は思考・判断・表現及び共有の段階でありたい。また、どの教科でも「聴き合う関係」づくりが授業の基本となることから、日々の授業の中で、教師が「聴く つなぐ もどす」をどのように行い、一人一人の学びを高めていくかを大切にする。

### (2) 聴き合う関係について

本校の目指す「対話」は、話し合いではなく、聴き合うことを中心に置いたものである。分か

ったことを発表し合うのではなく、仲間の考えを聴き、それに対して考えて反応する（うなずく、つぶやく）態度を育てる。したがって、活発な発言が飛び交う教室というよりも、誰のどんな発言も受け入れる温かさのある教室を目指しながら、子どもたちの言葉が仲間に向かうように、横の繋がりが生まれるように、どんな考えも受け入れて聴くことを指導する。

(3) 「協働的な学び」によって「学びに向かう力・人間性」を育む授業づくりの視点について

#### 「聴く」とは

子どもたちが、互いに聴き合えるようになるためには、まず、教師が最もよい聴き手として存在していることが大切である。教師が一人ひとりの言葉に耳を澄まし、丁寧に聴くことが何よりも重要である。どの子の発言も大切に受け止め、小さなつぶやきや予想外の発言にも耳を傾け、その真意を探りながら子ども同士の発言の複雑な「つながり」をもとに、子ども相互の関わりを築いていくことを大切にする。教師のこのような聴き方をまねて子どもたちの聴き方は育ち、次第に友達の意見を受け入れ、共通点や相違点を感じながら聴いたり、何かを発見するような聴き方をしたりすることができるようになるのではないだろうか。友達の発言に関わって話した子をほめたり、「共感しながら聴く」などの聴くときのイメージを持たせたりしながら、あせらずに、ゆっくり、じっくり育てていきたい。友達の発言に反応した聴き方や友達とのつながりを意識した発言が出来るようになると、話し合いの質が変わり、学び合いが生まれてくると考えている。

#### 聴くための視点

- ① ほかに子どもどの言葉に触発されたか、前の発言とどのようにつながっているか考えながら聴く。
- ② テキストのどの言葉に触発されたか考えながら聴く。
- ③ 板書とつなぎ、考えながら聴く。
- ④ 学んでいる内容が既習のどこにつながっているか考えながら聴く。
- ⑤ 学んだことがどのように役立つか考えながら聴く。

※ テキストとは、教科書にとどまらず、学習シート・資料、図、表、グラフ・具体物・挿絵・映像等全てを指す。

#### 「つなぐ」とは・・・今年度の重点

教材と子ども、ある子どもと別の子ども、ある知識と別の知識、昨日学んだことと今日学ぶこと、教室で学ぶことと社会の出来事、教室の現在と未来、あるグループと別のグループの話し合い、これらを結びつけることである。一人ひとりの疑問や気づき、考えをつなぎ合わせたり、似ている点や相違点を響き合わせたりすることで、子ども達の学びが深まると考える。

#### つなぐための視点

- ① 教材とつなぐ
  - ア 子どもとテキスト、板書をつなぐ。
  - イ 今日学んだことと既習をつなぐ。

② 自己とつなぐ

- ア 過去の自分と現在の自分をつなぐ。
- イ 既習と社会をつなぐ。

③ 他者をつなぐ

- ア 子どもと子どもの考えをつなぐ。
- イ 子どもと指導者をつなぐ。

子ども同士をつなぐ言葉

- 「〇〇さんの意見を聞いてどう思う？」
- 「～って言っていたけど、どうして？」
- 「もう少し詳しく話してくれる？」
- 「どうして〇〇なの？」
- 「どうしてそう思ったの？」
- 「〇〇さんの意見と似ている人いない？」
- 「〇〇さんと△△さんの考えのどこが同じなの？／違うの？」
- 「〇〇さんの意見を誰か分かりやすく話してくれる？」

ものやことをつなぐ言葉

- 「〇〇を見て、どんなことを感じた？」
- 「どの文章／言葉／表現からそう思ったの？」
- 「どの資料からそう考えたの？」
- 「前にも同じようなことはなかったかな？」

「もどす」とは

もどす活動は、問いや個人の意見・疑問の共有化のために、課題を教室全体やグループの話し合いにもどすことである。子どもの発言だけをもとに授業を進めていると時に、話し合いが授業のねらいとは違う方向へ行ってしまうたり、答えに行き着かず堂々めぐりをしてしまったりすることがある。そういうときに、みんなで教材を読み返してみたり、課題を再確認したりするなど、もどす活動をして軌道修正していくことが大事である。

もどすための視点

- ①テキストにもどす。
- ②前の課題にもどす。
- ③グループにもどす。
- ④全体にもどす。
- ⑤根拠にもどす。

もどす言葉

- 「その答えは、どこからそう思ったの？」「～って言っていたけど、どういうことかな？」
- 「どの言葉からそう考えたの？」「どうして、そう思ったの？」
- 「前は、どんなふうに行ったのかな？」
- 「〇〇さんの言っていた～って、どういうことかな？」

# 令和5年度 全体構想図

## 学校教育目標

### 心豊かで助けあう子 具体目標

- 明るくあいさつや返事ができる子
- 互いに認め協力しあえる子
- 物事の善悪を判断し行動できる子
- 「ありがとう」「ごめんなさい」を声に出して言える子

### よく考え学びあう子 具体目標

- ◎話をよく聴き、よく考えて学習する子
- ◎集中し、ねばり強く学習する子
- ◎自分の考えや思いをしっかりと表現できる子
- 目を輝かせて学び合う子

### ねばり強くきたえあう子 具体目標

- ◎すすんで活動や運動に取り組む子
- ◎最後までやりぬく子
- 命を大切にし、安全に気を付ける子
- みんなのためによく働く子

## 〈研究を通して目指す子ども像〉

友達や教師との対話を通して課題を追求し、自ら学び続ける子

## 研究主題

一人一人の学びを深める授業の創造

～ 教材・自己・他者をつなぐ ICT 機器の活用による協働的な学びを通して ～

## 「協働的な学び」によって「学びに向かう力・人間性」を育む授業づくり

### 聴く

- ①ほかの子どものどの言葉に触発されたか、前の発言とどのようにつながっているか考えながら聴く。
- ②テキストのどの言葉に触発されたか考えながら聴く。
- ③板書とつなぎ、考えながら聴く。
- ④学んでいる内容が既習のどことつながっているか考えながら聴く。
- ⑤学んだことがどのように役立つか考えながら聴く。

### つなぐ

- 教材**
- ①子どもとテキスト、板書をつなぐ
  - ②今日学んだことと既習をつなぐ
- 自己**
- ③過去の自分と現在の自分をつなぐ
  - ④既習と社会をつなぐ
- 他者**
- ⑤子どもと子どもの考えをつなぐ
  - ⑥子どもと指導者をつなぐ

### もどす

- ①テキストにもどす
- ②前の課題にもどす
- ③グループにもどす
- ④全体にもどす
- ⑤根拠にもどす

## 授業における ICT 機器の活用の工夫

ア 課題把握場面	イ 課題解決場面	ウ 学び合い場面	エ 振り返り場面
課題意識を高めるための資料や既習内容等を提示する場面。	課題を解決するための情報を得たり、調べたことを自分で整理してまとめたり、表現したりする場面。	他者の考えを共有し、比較したり分類したりする等の思考を深める場面。	学びを振り返り、学んだことをまとめたり、さらに発展させたりする場面。

## 学級経営による「聴き合う関係づくり」の構築

### 願い

ねばり強く学習に取り組み、自分の考えや学びを深めさせたい。  
適切かつ効果的に課題解決しようとしたり、自分の考えを発信しようとしたりする力を育てたい。